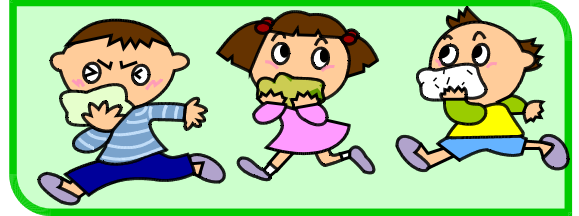


“予告なし”避難訓練

1月29日、業間休みに実施。

地震を想定した訓練（4月）、学校火災を想定した訓練（6月）、下校時の地震・津波を想定した訓練（10月）に引き続き、今年度最後の避難訓練は近隣火災（裏山から出火）を想定して行いました。

非常ベルがけたたましく響き、続いてサイレンが鳴り、校内放送で避難指示が出され、児童はそれぞれ遊んでいた場所、活動していた場所から校舎外の指定場所に避難してきました。



今回は、避難訓練を行うことをまったく児童に知らせていないにも関わらず、避難指示から全児童の安全確認終了までの時間は2分30秒でした。時間の長短はともかく、「お・か・し・も」（押さない、駆けない、しゃべらない、もどらない）をほとんどの児童が意識して行動していたことに感心しました。

さて、万一の災害時に、児童が大人と一緒にいない時の行動が心配されます。増水や津波が予想される時には、川や海に近寄らず高いところに逃げることや、火災発生時には消火行動、通報したり、火元から遠のいたり、火の流れを予想しながら逃げるなど、状況に応じた判断と行動が必要となります。

非常時に冷静に判断し、適切に行動することは簡単なことではないので、普段から訓練だけではなく学校生活全体を通して「問題解決力能力」を鍛えるとともに、「よく考えて行動」する習慣を身につけたいと考えます。

